

自治体名	沖縄県
------	-----

女性の健康支援対策の概要

県民の健康を維持増進していく施策については、これまでも各市町村や保健所における健康相談や講演会、健康展等における普及啓発等を実施している。特に生活習慣病の予防については、平成19年度に健康おきなわ21アクションプランを策定し、健康診査及びがん検診の受診促進や生活習慣の改善をめざして、推進大会を開催するなど全体的に普及啓発活動を展開している。

本県では、女性の健康に関する意識や健診（検診）受診状況等の調査から、健康に関する課題を明らかにし、女性のライフステージ毎の効果的な健康づくり支援のあり方を検討及び実践する。

特に若い世代からの健康に関する意識の啓発について、市町村が独自に実施している思春期教育や妊婦への健康相談等の取り組みについて市町村と連携し、女性の健康づくりの総合的な支援方法を検討する。

自治体の特徴

沖縄県は、日本の南西部に位置し、九州と台湾の間に弓なりに連なる琉球弧に属し、総面積 2,275.28km²で沖縄本島、宮古島、石垣島及び西表島、南北大東島など多くの島しょからなっている離島県である。

人口構成・(H21.3.31 現在)

	総数	男	女
人	1,397,812	687,889	709,923
割合(%)	100	49.2	50.8

15歳未満	252,183	129,472	122,711
15～64歳	908,653	458,248	450,405
65歳以上	236,976	100,169	136,807
75歳以上	112,350	40,507	71,843
80歳以上	64,301	19,462	44,839

女性に関する健康課題

平成18年度に行われた県民健康栄養調査によると男女共に肥満の割合が高く、男性は20歳代から、女性は、40歳代以降の肥満傾向がみられ、特に40歳代以降の急激な増加がみられる。

平成17年の平均寿命では、女性が86.88歳で全国順位1位（男性は、78.64歳で全国順位25位）となっているが、年齢調整死亡率では、男女共に中年期以降の死亡率が全国より高い状況にあり、特に女性の50歳代の急性心筋梗塞が増えている。また、がんによる死亡率も増加傾向にあり、特に子宮がんによる死亡は、全国で最も高い状況にある。

生活習慣病による外来受療率は全国より低いが、入院受療率は高い傾向にある。一方で生活習慣病予防のための健康診査の受診率は、全国平均より低い傾向にある。女性特有のがんについて、市町村の実施するがん検診受診率（平成19年度地域保健・老人保健事業報告）では、子宮頸がん21.2%、乳がん15.4%となっており、全国平均よりやや高いが、受診者は約2割で低迷している。

事業費（千円）

(1) 思春期から30歳代における健康支援事業	2,242
(2) 中高年期における健康支援事業	4,250
(3) 女性のがん支援事業	3,114
計	9,606

(1) 思春期から30歳代における健康支援事業

事業名	妊産婦への健康相談（親子健康手帳配布時を中心に）
分野	■健康教育 □健康手帳の交付 ■健康相談
事業費（千円）	2, 242千円

事業目的

女性の健康づくりにおいて、体の変化が著しくその後の健康意識に大きく影響があると思われる妊娠期において、妊娠経過や出産後の育児等に関するサービス提供のみでなく、妊娠時とそれ以降における栄養摂取の方法や体重管理の重要性、生活習慣病（がん検診を含む）等、女性の身体的変化における健康課題に関する啓発等を含め健康相談を実施することで生涯を通じた健康づくりを実践できるように支援を行う。

事業対象

- 1 今帰仁村の中学3年生 120人
- 2 親子健康手帳（母子健康手帳）の交付を行った浦添市の妊婦 607人（10月～3月交付）

事業実施体制・展開

- 1-①今帰仁村の中学校において中学3年生を対象に思春期教育「エイズについて考える学習会」を実施。学校と連携して思春期における健康教育を行い、健康づくりへの意識と命の大切さについて考える機会とする。
- 2-①妊婦への親子健康手帳（母子健康手帳）交付時に生活習慣病予防のための健診やがん検診の重要性について情報を提供し、健康づくりへの関心を深めるとともに行動に結びつけるため、保健師・助産師等による健康相談を実施。平成21年10月19日～平成22年3月15日交付の全妊婦：607人
 - ②相談時の資料は、栄養摂取の方法や体重管理の重要性、生活習慣病（がん検診を含む）等、女性の身体的変化における健康課題に関する内容について独自に作成したもの、または購入したものを使用した。
 - ③平成22年3月に電話及び封書によるアンケート調査で、意識の変化等を把握した。
アンケート調査回収数 181人分
 - ④相談実施後の生活習慣改善への効果及び健康診査やがん検診の受診状況については、平成22年度に確認し、効果を見る予定。

事業目標・評価項目 及び その結果

- 1-① 学校と連携した思春期教育の実施 今年度は、エイズ等感染症に関する内容の実施となった。
 - ② 病気への関心をもつ アンケート結果「病気についてもっと知りたい」との記述があった
 - ③ 学校と連携した健康教育の実施 次年度の健康教育（生活習慣病予防等）の開催について話し合いを持った。
- 2-① 妊婦への健康相談 満足度（満足、もっと聞きたい、自分の健康管理へ関心をもった）
アンケート結果 69.1%（125/181人）
 - ② 乳がんや子宮がん検診を受ける必要性は理解できた 76.2%（138/181人）
 - ③ がん検診の受診者を増やすための意見記載 63.5%（115人/181人）
 - ④ 妊娠中からの体重管理について具体的に回答 61.9%（112人/181人）
 - ⑤ 妊娠中からの食生活に関する取り組みを実践している 48.1%（87人/181人）
実践例：バランスのよい食事内容、家族全員で食事内容に関心をもつ工夫など

事業の工夫点

- 1-①学校内での授業として継続的に位置づける方向性を持って実施しており、教育内容の充実と継続的実施が期待される。
- 2-①情報提供内容に、具体的にがん検診の受診方法や資料などの提供を含めた。
 - ②手作りの資料を活用し、対象者の意見を参考に、よりわかりやすい資料へと改善し作成した。
 - ③健康相談後の効果について、電話等によるアンケート調査で対象者の反応を確認しており、今後の相談内容に反映させることができる。

事業の効果についての評価・考察

今回の取り組みでは、心身の変化が著しく、身体の変化や健康等についての関心が高まる思春期及び妊娠期に、健康教育や健康相談を実施した。中学生においては、望まない妊娠を防ぐこと、エイズ等の性感染症予防及び病気への偏見差別をなくすこと等目的とした学習を実施し、学校関係者からも、健康教育の継続的な実施についての意見が出され、今後、学校における市町村や関係機関と連携した効果的な健康づくりに関する学習の継続実施が期待される。また、妊娠中の健康相談では、妊娠中からの適正な体重管理や家族全員の食生活習慣改善、女性特有のがん及び検診についての情報提供など、その後の生活習慣病等の予防行動に繋がる意識付けを目標とした。

効果については、長期的な推移の確認が必要であるが、アンケート結果等から、学校教育と連携した継続的な普及啓発、健診やがん検診の受診促進においては、ターゲットを絞ったタイムリーな周知活動が必要であることが確認できた。

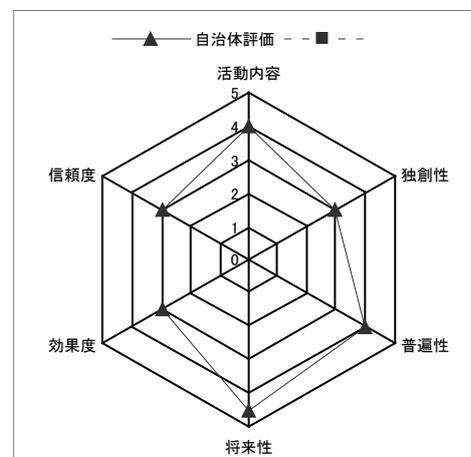
今後の課題

望まない妊娠出産の減少傾向の低迷、近年、性感染症との関連が確認された子宮頸がんは、若い世代において増加傾向にある。健康祭り等では、パンフレット等を用いた普及啓発を行っているが、健康に関心の高い参加者が多いと想定され、受診率向上への効果判定が難しい。

母子健康手帳交付時のがん検診についての説明や生活習慣病予防に関する健康相談については、継続的な実施、経年的な受診率調査等による効果確認が必要である。

ホームページ	http://www3.pref.okinawa.jp/site/view/cateview.jsp?cateid=80/
照会先	沖縄県福祉保健部 国保・健康増進課

事業評価	(企画評価委員会で評価)	
①活動内容	4	従来の母子健康手帳交付時の相談支援に保健師、助産師の相談支援を全員に実施した
②独創性	3	従来の母子健康手帳交付時の相談支援は実施しているが、妊婦の生活習慣病予防の観点からの情報提供を取り入れた
③普遍性	4	継続実施及び他の市町村で取り組むことが可能である
④将来性	4.5	中学生については、病気への関心をもつ機会となった。妊産婦への相談支援後のアンケート調査時の反応がよい
⑤効果度	3	次年度以降の検診受診状況への効果等を見極める必要がある
⑥信頼度	3	アンケート調査による状況把握及び効果確認を実施している



(2) 中高年期における健康支援事業

事業名	女性の健康講座
分野	■知識の提供 □健康相談 ■情報提供
事業費(千円)	4,250

事業目的

「女性の健康週間」の周知を中心に知識や情報の提供等の広報を行うことにより、女性の健康づくりに関する関心をもつ機会をつくり、県民への意識付けを行う。特に生活習慣病予防のための健康診査や女性特有のがん検診受診促進を目的とした。

事業対象

一般県民

事業実施体制・展開

1 健康パネル展の実施による知識等の提供

①女性の健康週間を中心に、北部、中部、南部地域における量販店等で、健康パネル展を実施。

健康パネル展示会場においては、会場毎に異なるイベントを設定し、アンケート等で意見を聴取。

・北部地域：マンモグラフィ体験実施等（平成22年2月20日） 10名受診

・南部地域：ラジオ特番公開放送「チャットステーションL」（2月27日）におけるミニ講話及び質疑応答

講師：琉球大学医学部附属病院産婦人科（平川誠先生）、那覇西クリニック乳腺外科（鎌田義彦先生）

・中部地域：診療放射線技師、看護師等、検診従事者による相談コーナーの設置（平成22年3月6日）

②女性の健康週間及び各地域における健康パネル展示の広報

テレビ、ラジオ、巡回ラジオカー放送、新聞広告掲載等を通して周知広報を実施。

2 結果

①健康パネル展示会場等での実施結果

・北部地域でのマンモグラフィ体験受診者は10名であった。来場者の中には、20歳代で希望する方もおり、検査内容の説明を行い、検診センターでの受診につなげることができた。「マンモグラフィを受けましょう」との広報については、どの年代に適した検査なのか具体的な説明が必要との意見があった。（アンケート回収17枚）

・南部地域：ラジオ特番公開放送「チャットステーションL」では、県民の若い世代で人気のある番組であり、メールやFAXでの率直な意見が寄せられた。特に女性特有の乳がん、子宮がんについての専門医をスペシャルゲストとして、ミニ講話を行い、質問コーナーを設けた。（アンケート回収68枚）

・中部地域：診療放射線技師、看護師等、検診従事者による相談コーナーを設置し、検診の受診方法等の具体的な情報提供を行った。（アンケート回収31枚）

事業目標・評価項目 及び その結果

<健康パネル展示会場及び女性の健康講座における116枚（うち女性：103枚）の集計結果>

① 女性の健康週間についての認知度及び関心度 ラジオ公開特別番組中のメールやFAXでの意見数 38枚

② 女性特有のがん検診受診率 アンケート結果

乳がん検診：未受診56.3%、1～2年前に受診28.1%、3年以上前受診6.8%

子宮頸がん：未受診43.7%、1～2年前に受診34.4%、3年以上前受診14.6%

③ 検診を受けない理由 健康に問題がない(15.7%)、時間がない(25.9%)、検診の結果が不安だから(7.4%)

④ 受講後 HPVの予防ワクチンは必要だと思う(43%) わからない(59%)

⑤ 受診者を増やすための意見記載内容等(26枚/116枚)

記載内容：「義務受診にさせ、仕事は有給処理できるようになればいいと思う」「広告をもっと増やしてほしい」

事業の工夫点

- ① 健康パネル展示会場においては、会場毎にマンモグラフィの体験実施、健康相談コーナーの設置、ラジオ公開番組での意見聴取など異なるイベントを設定し、アンケート等で意見を聴取した。
- ② 女性の健康週間の周知については、テレビ及びラジオ（各ネット96本）、巡回ラジオカー放送（3回）、新聞広告掲載等を通して事前の周知広報に力を入れた。

事業の効果についての評価・考察

今回の「女性の健康週間」の周知を中心にした、女性の健康に関する知識や情報の提供等は、テレビ、ラジオ等での集中した複数回の呼びかけ広報によって、県への電話等での問い合わせがあり、多くの県民の目や耳に入ったと考えられる。地元のラジオ人気番組（チャットステーション）で取り上げた際は、男性からの意見も多く、60通余のメールやFAXが寄せられた。また、設定した各健康パネル会場においても、「女性の健康週間があることを知らなかった」「買い物ついでに立ち寄ったが参考になった」「毎年実施してほしい」などの意見があった。

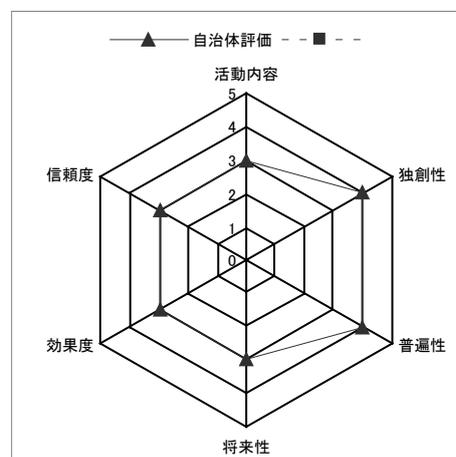
従来の健康講演会以外に、県民の目に触れやすい量販店等における情報提供の場の確保については、各市町村や保健所における取り組みと連携して全県的な周知広報を行うことで、認知度を高める必要がある。

今後の課題

今回は、広く一般的な中高年期の女性の健康についての情報提供にとどめたので、今後は、中高年期の中でも、更年期等、対象時期を絞り込んだ情報提供や講演会の実施等について検討する必要がある。

ホームページ	http://www3.pref.okinawa.jp/site/view/cateview.jsp?cateid=80/
照会先	沖縄県福祉保健部 国保・健康増進課

事業評価	(企画評価委員会で評価)	
①活動内容	3	女性の健康週間についての周知の機会となった
②独創性	4	テレビ、ラジオでの広報は、これまであまりなかったので、試みとしてはよいと思う
③普遍性	4	継続的に実施できるよう、市町村や関係団体と連携して実施することは可能である
④将来性	3	継続的に実施すれば効果は期待できる
⑤効果度	3	継続的に実施できればイベントが周知され、健診受診などの健康行動に繋がると考える
⑥信頼度	3	参加者がもともと健康に関心の高い人であることが考えられるため考慮する必要がある



(3) 女性のがん健康支援事業

事業名	女性の健康講座、若い世代への意見聴取
分野	<input type="checkbox"/> 啓発活動 <input checked="" type="checkbox"/> 健康教育 <input type="checkbox"/> 健康相談
事業費（千円）	3, 114千円

事業目的

離島圏である宮古、八重山地域において、女性特有のがん及びがん検診受診促進を主なテーマとして講演会を実施することで、女性の健康づくりに関する情報提供の機会を増やす。また、アンケート調査や地域の若い世代からの意見聴取により、地域の健康課題分析及び対策の資料とする。

事業対象

女性の健康講座：宮古地域、八重山地域の一般住民
若い世代への意見聴取：八重山地域の高中生等

事業実施体制・展開

離島圏である宮古、八重山地域において、女性特有のがん及びがん検診受診促進を主なテーマとして、健康講座を開催し、アンケート調査を実施した。広報及び受診状況等の情報提供については、各地域の保健所や市町村と一部連携して実施した。

- 宮古地域における講演会 時期：平成21年11月3日（火）公休日、 場所：宮古支庁舎 講堂
テーマ：「～知っておこう！子宮がんと検診のはなし～」
講師：県立中部病院 産婦人科 高橋慶行先生
参加者：40人（アンケート回収数：33枚） 広報：新聞への事前広告、事後の記事掲載
- 八重山地域における講演会 時期：平成22年2月6日（土）、 場所：石垣市健康福祉センター 視聴覚室
テーマ：「～知っておこう！婦人科がんのあんなこと こんなこと～」
講師：琉球大学医学部附属病院 産婦人科 久高学先生
参加者：50人（アンケート回収数：38枚）
広報：テレビ、新聞への事前広告（広告、折り込みチラシ）、事後の記事掲載、講演会終了後に、地元テレビで講演内容の放送を行った。
- 八重山地域の高中生からの意見聴取 時期：平成22年3月26日（金）
参加者：地域の高校生等16名、ピア活動の指導教諭1名、がん罹患経験者1名
テーマ：女性特有のがん検診の受診者を増やすために） ・意見をチラシの声欄に掲載した。

事業目標・評価項目 及び その結果

目標：女性の健康に関心をもち、健診及びがん検診の受診者を増やす。がん検診受診の必要性の理解、受診状況

結果：アンケート結果：女性の健康講座開催時アンケート回収数 71枚（女性66枚、男性5枚）

- ① 乳がん検診受診率（1年前：51%、2年間前：20%）、子宮頸がん検診受診率（1年前：73%、2年間前：9%）
- ② 検診を受けない理由 健康に問題がない（40%）、時間ががない（40%）、はずかしい（13.3%）
- ③ 受講後 子宮がん検診の受診は必要だと思う（97.2%）
- ④ 受講後 HPVの予防ワクチンは必要だと思う（69%）
- ⑤ 受診者を増やすための意見記載内容等（31枚/71枚）

記載内容：「学校での教育が必要」「広報については、地域の集落など小さな単位での説明会を開かないとなかなか伝わらない」「子供の一時預かりの場があると受診しやすい」「友人に声をかけて一緒に受けたり、勧めたりしている」「HPVの予防ワクチンは自己負担を少なくしてほしい」

事業の工夫点

- ① 八重山地域では、講演会に参加できなかった方への情報提供の方法として、後日、地元テレビで講演の収録内容を放送した。放送中には、講演会当日参加者からの質問内容への回答も含めた。
- ② 子宮頸がん検診の対象年齢に近い若い世代の意見等を受診促進のための取り組みに反映させるため、高校生からの意見聴取の機会を設けた。

事業の効果についての評価・考察

- ・講演会への参加者数は、40～50人と少ない状況であった。参加者からは、講演会の継続実施、周知広報の工夫が必要など多数の意見が出ており、会場や開催日時、事前広報のあり方等の検討が必要である。
- ・八重山地域においては、講演終了後に地元テレビでの放送を実施しており、当日参加できなかった方への周知に配慮できた。今後、事前広報の改善の検討、当日参加できなかった住民への周知等について、市町村、自治会及びメディア関係者等と連携した取り組みを検討したい。
- ・地域の高中生からの意見：「健康診断やがん検診に関心がない」「今は病気になると思ってしまう」など日頃の率直な感想があった。また「親へ検診の結果が届いたら気になる」など身近な人と関係すると関心が高まることや「身近な友人から誘われたら受診する」「パートナーに検診に行つてと言われたら行く気になる」「広報番組でも顔なじみの人が出たら何だろうと関心を持つ」など検診受診者を増やすため意見を聴取することができ、今後のポスターやチラシの作成についてもアイデアが出た。今回は、がんの罹患経験者からの体験談やメッセージを伝えたことで、がんや検診について関心をもつ機会にもなったとの感想があり、今後、このような機会を増やすことの効果について検討していく必要がある。

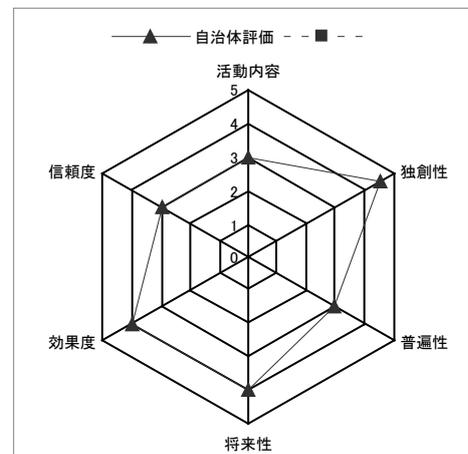
今後の課題

今後も、女性特有のがんや健康に関する地域の課題や状況に応じたテーマで、継続的な取り組みが実施できるよう、管轄保健所、市町村等と連携していきたい。また、効果的な広報等について、企業との連携による受診促進事業等の活用を検討が必要である。

講演のビデオ収録を、地域や職場で活用できれば、気軽に、より多くの県民へ知らせることが可能となるが、その利用方法については、統計資料等の利用制限の問題もあり、検討が必要。

ホームページ	http://www3.pref.okinawa.jp/site/view/cateview.jsp?cateid=80/
照会先	沖縄県福祉保健部 国保・健康増進課

事業評価	(企画評価委員会で評価)	
①活動内容	3	離島圏域での講演会実施の機会を増やした
②独創性	4.5	講演内容の収録を、後日、地元テレビで放送したことは、周知の拡大に繋がった
③普遍性	3	講演会の継続実施、定着については関係機関との連携が必要
④将来性	4	講演会の継続実施、地域の課題に応じた内容の実施については関係機関との連携が必要
⑤効果度	4	アンケート結果及び意見聴取の内容から、肯定的な意見が確認できた
⑥信頼度	3	アンケート結果についてが、参加者がもともと健康に関心の高い人であることが考えられるため考慮する必要がある



石垣ケーブルテレビ テレビ特別番組 「女性の健康講座」

石垣ケーブルテレビ

「女性の健康講座」
事後放送

《講演放送時間》

・時間＝1時間30分

・回数＝4回

・放送日時

3月6日(土)、

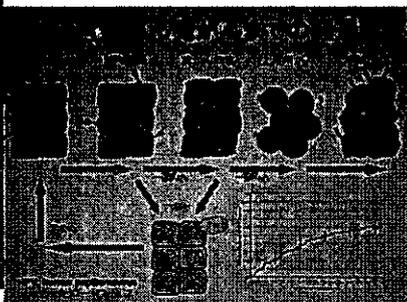
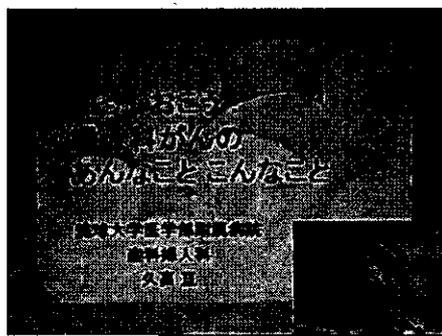
18:00～19:30、

23:00～24:30

3月7日(日)

18:00～19:30

23:00～24:30



乳がん・子宮がんは2年に1度の検診を受けましょう

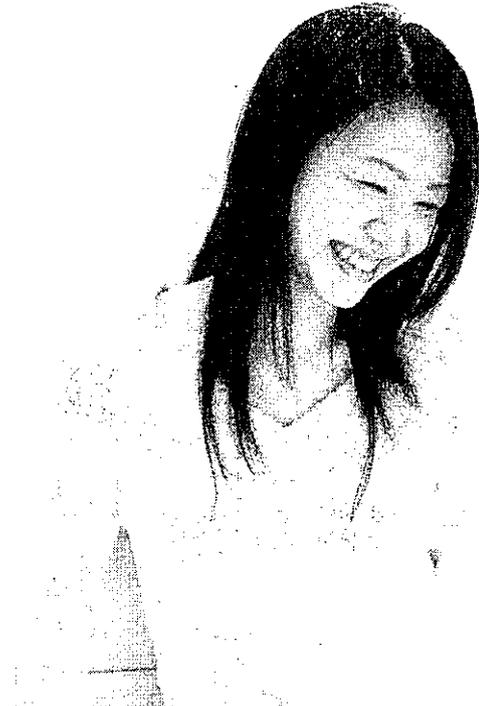
乳がん	子宮がん
問診 家族歴、既往歴、月経及び痔瘻などに関する事項、乳房の状況、検診受診状況などをおたずねします。	問診 痔瘻及び分娩歴、月経の状況、不正性器出血などの症状の有無、検診受診状況などをおたずねします。
マンモグラフィ 専用の装置で、乳房をプラスチックの板に圧迫してはさみ、上下左右の2方向からX線撮影することで乳房全体像を捉え、乳房を強くはさむことで少し痛みを感じることもあります。乳房の大小にかかわらず、検査を行います。	視診 鏡鏡という器具を挿入して、子宮頸部の状況を直接観察します。
視触診 乳房組織の発達した閉経前の人には、小さな形が見えにくくなる場合があります。これを補うために行います。視診は、乳房や乳頭の形状、皮膚のひきつれ、くぼみの有無などを調べます。触診は、しこりの有無、大きさや硬さなどを、乳房からわきの下やリンパ節などの範囲を手で触って調べます。また乳房を圧迫して分泌物の有無を確認します。	内診 片方の手の指を腔内へ入れ、もう片方の手でお腹を押さえて子宮、卵巣、子宮近辺を触診します。子宮の大きさや、卵巣の腫瘍の有無、押さえることによる痛みなどの有無を診察します。
	細胞診 子宮頸部の細胞を綿棒などでこすってとり、顕微鏡で調べます。肉眼ではわからない初期の病変を発見することがあります。痛みもほとんどなく、頸部が腫れては広く行われている検査です。

婦人科をうまく利用しましょう。
 婦人科は女性の味方です。体調がおかしいと感じたときは気軽に相談してみましょう。また普段からかかりつけの婦人科医を持つことは安心にもつながります。

事前に	当日は
<ul style="list-style-type: none"> 事前に電話で問い合わせ 気になる症状をメモしておく 基礎体温表があれば持参 	<ul style="list-style-type: none"> 脱ぎ着のしやすい服装を 顔色が変わるよう、化粧は薄め 念のため健康保険証と生理用品

健康な生活のために

食生活 もっと朝食！ 1日3食、バランスよく食べよう	運動 運動を継続して、できるだけ体を動かそう！	睡眠・ストレス 休養をとってストレスを解消 ひとりで悩まず相談を！
飲酒 お酒はほどほどに 妊婦は飲めません！	喫煙 たばこは、美容や健康の天敵です！	性行為 望まない妊娠・性感染症を 防ごう！

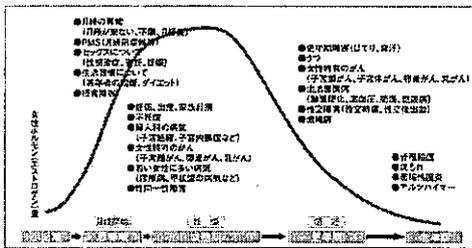


女性の健康づくり
 応援BOOK

◎ 沖縄県 国保・健康増進課
 お問合せ 098-866-2209
 沖縄県 検察

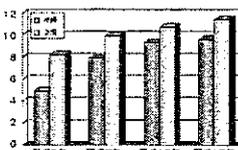
女性と男性では、身体のつくりや生理的な機能が異なるだけでなく、かかりやすい病気がちがいます。思春期・妊娠・出産・更年期といった、ライフステージや月経周期に伴い、女性の心と体は、女性ホルモンや環境の影響を受けて大きく変化します。

女性のライフステージで起こりやすい健康トラブル(例)



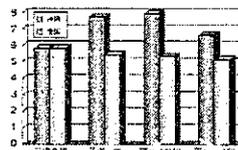
女性の20人に1人が乳がんにかかると言われていますが、30代女性の死因第1位はがんです。この世代の女性の死亡は、家庭的にも社会的にもとても大きな影響をあたえてしまいます。

乳がんによる死亡率の全国比較



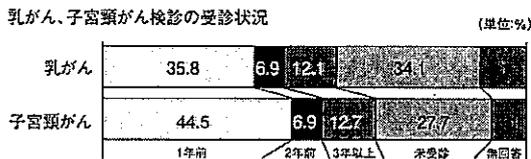
乳がん
 30～64歳の女性では、がんによる死亡原因のトップは乳がんです。しかし、早期発見なら命も乳房も失わずに治せます。

子宮がんによる死亡率の全国比較



子宮がん
 20～30代の女性に増えている子宮頸がんは、がんになる前に発見でき、100%予防できる唯一のがんです。

女性の健康支援対策事業アンケート結果より(平成21年度)



がん検診を受けた方の感想

マンモグラフィが思ったよりも痛い！ (30代 女性)

受診するまでに5年くらいかかった。(20代 女性)

「痛い」と思う気持ち強いけど、もしもの時の後悔が大きくなりそうなので、勇気を出して受診します！ (30代 女性)

検査を受けて少しだけ安心した気になりました。(40代 女性)

やっぱり健康に過ごすためには、必要なことは受けるべきだと思いました。(40代 女性)

妻にいつになっても健康でいて欲しいので受けてもらいました。(男性)

乳がんで亡くなった友人が死と引き換えに届いたメッセージが検診受診した。(男性)

初めに受診した時は緊張しましたが、今では当たり前になっています。(40代 女性)

健康診断やがん検診を受けない理由

今は病気にならないと思ってしまう。(10代 女性)

関心がない。(10代 女性)

女性のがん検診を受ける人を増やすには？

友人と一緒にいこうって誘われたら行く。(10代 女性)

ブログは、絶対1冊は見る。そのときの有名な人や身近な友人が出ていたら、関心を持つ。(10代 女性)

パートナーに「検診に行きたい」と言ってくれたら行く気になる。言ってくれ。(10代 女性)

ボクスターやチラシは、知っている紙(学校の生徒など)があると関心をもつて見る。言いがちある場所、カラオケ店などに貼るといい。(10代 女性)